

伝えたい「みんなちがって、みんないいんだよ」と

第36回全国中学生人権作文コンテスト
法務省人権擁護局長賞受賞

村上愛華さん

ムラカミ・マナカ 15歳 西根中3年



平成13年生まれ。好きな教科は社会科で、趣味はピアノ、読書。部活は卓球部に所属。法務省・全国人権擁護委員連合会主催の第36回全国中学生人権作文コンテストで法務省人権擁護局長賞を受賞。

「入賞できるとは思っていなかったのが驚きました」と、ほほ笑むのは、第36回全国中学生人権作文コンテスト法務省人権擁護局長賞を受賞した村上愛華さん。

障がいを持つ家族がいる愛華さんは、夏休みの課題であった人権について考える作文を通して、これまでの自身の障がいに対する考え方や気持ちの変化を表しました。「家族の障がいについて、周囲の目が気になり悩んでいた時に、母親との対話の中で教えてもらった金子みすゞさんの詩『わたしと小鳥とすずと』の中の一節『みんなちがって、みんないい』。この言葉に出会い、家族を誇りに思えるようになったことを作文につづりました」と話します。



意見発表会で真っすぐに思いを伝える愛華さん(10月31日、矢巾北中学校)

「普段は積極的に気持ちを話すことがないので、発表会は、思いを伝える場となり得ました。また自分が成長できる機会にもなったと思います」とはにかみます。また「人権とは、人を思いやることだと思えます。ハンディを持っている人たちを避けて、普通じゃないと思うのは良くないことだと思います。私の作文を通じて、一人でも多くの人が人権について考えたり、行動してくれるきっかけになればうれしいです」と、期待を込めました。

今月の表紙

2017年もステキな1年になりますように

12月23日、門松教室に参加した伊藤学さん一家(中関)。「2017年も家族全員が、明るく楽しく健康で過ごせますように」と、願いを込め、門松を完成させました。後列左から、伊藤学さん、長女 凜さん、妻 由佳さん、前列左から、三女 菜々子さん、次女 楓華さん



編集後記

▼明けましておめでとうございませう。新年号より、紙面を一部カラー化したしました。また、お知らせ版を本号に統合し、発行が月1回となります。市民の皆さまの声・ご意見などを聞きながら、より読みやすく、親しみやすい紙面づくりに励んで参ります。今年も1年どうぞよろしくお願いいたします。広報担当一同